

「摩擦接合」執筆要領

平成20年2月15日 制定

本要領は、摩擦接合技術協会会誌「摩擦接合」に研究論文、その他の原稿を投稿する場合に必要な書類の作成方法および原稿の体裁、書き方などについての基準を示したものである。

1. 原稿の形式、長さ

- 1) 摩擦接合技術協会（以下、本会という）指定の原稿表紙（別紙1）に、表題、著者氏名、所属機関およびその所在地を日本語と英語で記載する。
- 2) 原稿は、3項に定める所定のフォーマット（付図1参照）により作成し、CDディスクに保存した原稿を、そのまま印刷原稿とする。このため印刷所による組版は行わない。ただし、依頼原稿はこの限りではない。
- 3) 印刷所でCDディスクから版を作製し印刷を行う。このため校正（1回）は、文字化け、図表の欠け等を確認するのみとする。
- 4) 刷上り原稿の規定ページ数は以下の通りとする。
 - ① 研究論文、技術資料および解説は6ページ以内を基準とする。ただし、2ページまでの超過を編集委員会が認める場合がある。
 - ② 技術レポートおよびその他の原稿は2ページ以内とする。
- 5) 表題は、簡潔でしかも論文の内容を適切に表す40字以内とする。
- 6) 副題を付けることも出来るが、原稿の内容を具体的に示すものを表題とし、大きな内容を副題とする。
- 7) 研究論文および技術レポートには、和文表題、和文副題と内容が一致する英文表題および副題を併記する。
- 8) 筆頭著者氏名、所属機関名および所在地を第1頁の脚注として横線で区別して日本語と英語で記載する（付図1参照）。また、共著者がある場合は、全員の氏名および所属機関名を日本語と英語で記載する。所属機関が異なる場合は、所属機関名、所在地を日本語と英語で記載する。現所属機関が研究時と異なる場合は、〔 〕内に現所属を日本語と英語で記載する。

- 9) キーワードは、論文の主題を適切に表現し、情報検索の際のキーワードになるように米語で8語以内を記載する。

2. 英文概要

- 1) 研究論文には英文概要を記載する。その他の原稿には不要である。
- 2) 英文概要は米語を用い150~200語程度で1パラグラフとする。
- 3) 英文概要は日本語を読むことが出来ない外国人に、論文の内容を伝えるために設けるものである。得られた結果を含めて情報伝達が出来るように記述する。

3. 原稿の構成

- 1) 刷り上がり原稿の体裁は次の通りとする。
 - ① 文字の書体は、日本語はMS明朝およびMSゴシックによる。英数文字は日本語が普通字のときはTimes New Roman、ゴシックのときはArialとする。
 - ② 1ページは9ポイント(pt)の文字で、2段組（1行25文字×54行）、天地余白20mm、左右余白20mmとして、段間は8~10mm空ける。（付図1参照）
 - ③ 句読点には、読点（、）、句点（.）、中点（・）を適当に用いて文章を区切り読みやすくする。
 - ④ 和文表題、和文副題、和文著者名、英文表題、英文副題、英文著者名および英文概要は、すべて段組をしない中央揃えとする。
 - ⑤ 和文表題は15pt MS明朝による最大40字とし、1行は20字以内とする。
 - ⑥ 和文副題は14pt MS明朝による最大20字とする。

- ⑦ 和文著者名は 11pt MS 明朝を使用し、1 行 3 名以内とする。
 - ⑧ 英文表題は 14pt Times New Roman を使用し、1 行の長さはバランスを見て区切る。
 - ⑨ 英文副題は 13pt Times New Roman を使用する。
 - ⑩ 英文著者名は 11pt Times New Roman を使用し、1 行 3 名以内とする。
 - ⑪ 脚注は当該ページの下部に横線で区別し、8pt MS 明朝および 8pt Times New Roman により記載する。行間隔は 2/3 改行とする。
 - ⑫ 最終ページに余白ができる場合は、本文を 2 段均等に割り付け、後は余白とする。(付図 1 参照)
 - ⑬ その他の記載はレイアウト見本(付図 1)による。
 - ⑭ 付図 1 を満たした最終提出原稿(査読による修正後の原稿等)を入力した CD ディスクおよびハードコピー 1 部(A4 版白紙に印刷)を「編集委員会」に提出する。ハードコピーの右上に鉛筆で「1/6, 2/6, ~6/6」のページ数を記載する。
- 2) 本文は次の中から必要事項を選択して作成する。
- ① 緒言
 - ② 実験方法
 - ③ 実験結果および考察(実験結果のみの場合は④考察を挿入する)
 - ④ (考察)
 - ⑤ 結言またはまとめ(謝辞がある場合は、結言の後に「謝辞」の項を置く。)
 - ⑥ 参考文献
- 3) 原稿は、常用漢字、現代かなづかいによる簡潔な口語体で記述する。日本語のかな書きはひらがなとする。
- 4) 見出しは、章：1. 節：1.1 項：1.1.1 とする。
- 5) 本文中の述語は原則として文部省制定の学術用語集および JIS の用語集による。
- 6) 数量の単位は S I 単位系を用いる。
- 7) 商品名の使用はできるだけ避ける。

4. 図・表

- 1) 図表はグラフプロセッサ等で作成したもの、あるいはスキャナ等で取り込んだものを、本文中の記述箇所近辺に差込み印刷する。図(写真を含む)は白黒図面を貼込むことを原則とするが、カラー

図面(写真を含む)は、必要経費を自己負担することにより掲載できる。

- 2) 図、写真、表の使用は、必要最小限に止め、図と表の重複は避ける。図中に余白を大きくとらない。また、軸の説明文字を軸からあまり離さないよう注意する。図中の記号等の説明はキャプション(説明文)に記入せず、なるべく図中に収める。図表またはキャプションと本文の間には 1 行分の余白をとる。
- 3) 図と写真は区別することなく図として数える。
- ① 研究論文および技術レポートの図、表のキャプションは米語を用いた英文とする。キャプションは本文を読まなくても、図、表が理解できるように記載する。図は Fig. 1, Fig. 2, , 表は Table 1, Table 2, とする。ただし、本文中に最初に出たものは太字とする。
 - ② 研究論文および技術レポート以外の原稿のキャプションは日本語とする。図は図 1, 図 2, , 表は表 1, 表 2, とする。ただし、本文中に最初に出たものは太字とする。
- 4) 写真には必ず縮尺を記入する。

5. 参考文献

- 1) 参考文献は、通し番号をつけて原稿の末尾に引用文献を一括して記載する。引用番号の数字は本文の該当する箇所の右肩に半括弧付きで記入する。
- 2) 参考文献の記載は次の例による。なお、著者名はフルネームで書く。外国雑誌の略名は Chemical Abstracts の記載に準じる。

①雑誌の場合

文献番号) 著者氏名(全員) : 表題, 雑誌名, 巻一号(西暦発行年), 開始ページ-終了ページ.
(巻一号数字は太字にする)

[例]

- 1) 横山 隆, 小川恒一 : 6061 アルミニウム合金 / SUS304 ステンレス鋼摩擦圧接継手の衝撃引張特性, 溶接学会論文集, **20-3**(2002), 415-424.
- 2) 大植義夫, 沖田耕三, 有年雅敏, 中山英明 : 6061 アルミニウム合金同種材摩擦圧接継手の大気中および人工海水中の疲労強度特性, 摩擦圧接, **4-4**(1998), 125-130.

- 3) M.H.Scott and I.F.Squire: Metallurgical Examination of Aluminum -Stainless Steel Friction Welds, Brit. Weld. J., **13-3**(1966), 151-164.

②書籍の場合

文献番号) 著者名 (全員) : 書名, 巻 (1巻のみ
の場合は不要) (西暦発行年), 引用開始ページ
-終了ページ, 発行所.

[例]

- 1) 摩擦圧接研究会編: 摩擦圧接, (1979), 43-45,
コロナ社.
- 2) 溶接学会編: 溶接・接合便覧, (1990),
999-1003, 丸善.
- 3) P.R.Swann and J.D.Embury:High Strength
Materials, (ed.V.F.Zackay), (1991), 300-316,
John Wiley & Sons.

③前刷集の場合

文献番号) 著者名 (全員) : 表題, 前刷集名,
巻 (1巻のみの場合は不要) (西暦発行年),
開始ページ-終了ページ.

[例]

- 1) 加藤数良, 東條利洋, 時末 光: 2017 アルミ
ニウム合金と 5061 アルミニウム合金の摩擦圧
接: 溶接学会平成6年度秋季全国大会予稿集,
(1994), 43-45.

- 2) 加藤数良, 時末 光: マグネシウム合金の摩擦
圧接, 摩擦圧接協会平成元年度第1回研究会,
(1989).

- 3) Y.Suga, J.Ozawa, S.Miyakawa and K.Ogawa:
Estimation of Temperature Distribution in
Welded Joint during Friction Welding by
Finite Element Method, Proceeding of
Plasticity '95 Osaka, (1995), 135-138.

6. 他の著作物からの転載に関する注意事項

- 1) 他の執筆者が発表した文章, データ, 図, 表, 写
真等を引用する場合は, 本文および図表の説明文
中に引用番号を明示し, 参考文献にその番号を記
載し, 引用文献名等を明示する。この場合, 自著
を含めて原著者および発行者の転載許可を著者
自身が得ること。

7. 原稿の送付先

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-36-6

生々文献サービス内

摩擦接合技術協会 編集委員会

電話: (03)3375-8446, Fax: (03)3375-8447

8. 本要領の改訂

- 1) 本要領の改訂は理事会の議決による。

附則

- 1) この要領は平成20年2月15日から施行する。